

1. 評価報告概要表

作成日 2009年7月21日

【評価実施概要】

事業所番号	1070101199
法人名	医療法人社団清宮医院
事業所名	グループホーム山王の家
所在地	前橋市山王町133番地 (電話) 027-266-8616

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年7月21日

【情報提供票より】(平成21年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 3人, 非常勤 6人, 常勤換算 9人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨		
	1階建ての	1階	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 300円
敷金	有(100,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	400 円	昼食 640 円
	夕食	640 円	おやつ 100 円

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 90.6歳	最低	80歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人青樹会 山王医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR両毛線駒形駅より車で10分のところに、田畑が広がる環境の中老人保健施設「山王ライフ」の敷地内に建てられている。入居者は、天気の良い日は近隣を散歩したり、ベランダに出て外気浴やティータイムを楽しんでいる。また、隣接の老人保健施設まで出かけ、歩行器や車椅子を使用している入居者を含め、平行棒や階段昇降、滑車等のリハビリを日課として、気分転換にもなっている。職員は、入居者の人間としての尊厳を尊重し、一人ひとりの生活スタイルを大切に、健康状態に配慮し、残存機能の維持向上への支援を実践している。また、調理担当職員3名が交代で食事を作り、栄養士の作成する献立を基にして入居者の好みを聞きながら、手作りの食事を提供している。全職員が、熱心に介護サービスに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目について職員全員で検討を行い、重要事項説明書に苦情相談窓口について追記、介護計画書に家族の承諾の確認欄を設ける等の具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、全職員は評価の意義を理解し、評価についてミーティングで話し合い管理者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月毎に開催され、入居状況、行事運営報告、評価結果を議題に話し合いをしている。出席者の意見から、火災時対応や緊急対応時の行動の順序、苦情等の対応等を作成し、電話機の前に掲示するなど、意見を運営に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情相談受付窓口を重要事項説明書に明記し、入居時に説明をしている。面会時には入居者の生活や健康状態等を家族等に報告しながら、要望や意見を聞くようにしている。出された意見は、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の小学校で行なわれる「ふれあい祭」には、招待を受け参加をしている。また、中学生の体験学習の受け入れをしたり、大学生ボランティア、地域のボランティアのフラダンスやマジックショーの訪問があり、交流が行われている。元自治会長も運営推進会議のメンバーであり、地域の情報を得ている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての意義を確認して、地域と連携し、家庭的な環境の下で、人間として尊厳を尊重された自分らしい生活をする事への支援を謳った運営理念に作り変えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は理念を理解し、理念にある人間としての尊厳を大切にされた対応に心がけている。書道や絵を描いたり、食事の準備や後片付け、洗濯物たたみをする等、入居者の好きなことやできる事をして頂き、自分らしく生活する支援に取り組んでいる。理念は、玄関・事務室に掲げている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは、地域の小学校の運動会やふれあい祭りに招待され、参加している。また、中学校の体験学習の受け入れや大学生ボランティア、カラオケやフラダンス等の地域ボランティアの方がホームを訪れて、交流が行われている。元自治会長も運営推進会議のメンバーに入っており、情報交換をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、全職員は評価の意義を理解し、全員で自己評価に取り組み、ミーティングで話し合い管理者がまとめている。振り返りから、言葉かけの工夫、口腔ケア終了までの見守り徹底を取り組み始めている。また、昨年の評価から、苦情相談受付窓口を重要事項説明書に追記、介護計画書に家族の承認欄を設ける等、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開かれ、入居状況や行事運営、評価結果報告、地域の情報等を議題に話し合いをしている。意見を活かして、災害や緊急時対応の方法、苦情電話対応を、電話機の前に大きな字で掲示する等、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の介護保険等の研修会に参加して、情報交換をしている。行事等で市の駐車場や車椅子を借用する場合は、市役所の担当課に相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回発行の「山王の家便り」に、入居者の暮らしぶり、行事風景を写真で掲載し、各家庭に報告をしている。また、家族の面会時に報告し、緊急の場合は電話で報告をしている。金銭は預からず立て替えをした場合は、レシートを提示して支払って頂いている。職員の異動は、随時報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談受付窓口は入居時に説明し、重要事項説明書に明記して意見箱と共に玄関脇に設置している。職員は、家族の面会時に声をかけ、意見や要望を聴取するよう働きかけをしている。苦情等は運営推進会議においても報告し、検討し改善に努めている。また、老人保健施設と共に苦情処理委員会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少なく、退職者があると早めに補充し、入居者に報告をしている。新入職員が早く業務に慣れるために2人1組になり、時間をかけ指導し、早く入居者との信頼関係を築けるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県主催の実践、リーダー、管理者研修会や地域密着型サービス連絡協議会のレベルアップ研修に出席し、復命書を提出し会議で報告している。法人内では、インフルエンザ等の感染症、褥創予防等の研修会が行なわれている。新入職員には先輩職員が付いて業務に早くなれるよう指導をし、働きながらトレーニングをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会が主催する研修会に参加して同業者との交流を図り、レベルアップ研修会では他ホームとの相互訪問研修を行い、サービスの質向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の希望があると、本人、家族にホームの雰囲気を知って頂くために見学に来てもらっている。来られない方には、出向いて説明し情報を得て、顔見知りになっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者は人生の先輩であるとの考え方を共有している。普段から入居者に教えてもらう場面が多く、戦争体験や昔の遊びや歌などの話を聞いたり、うどんや蕎麦打ち等を職員と一緒にして過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者のしぐさ等から何がしたいのかを気づいたり、家族からの意向を聞いたりしている。意向の把握が困難な場合には、申し送りや会議で検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望や要望を聞き、入居者のケアをする職員や主治医からの情報を得て、2ヶ月毎のケア会議で話し合い、ケアマネジャーは介護計画を作成している。介護計画は、家族の了承を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間は3ヶ月となっているが、心身の状態の変化や家族の要望等を聞き、申し送りやミーティング等で話し合い、介護計画は随時見直されている。しかし、安定している入居者は期間まで見直しがされていない。	○	安定しているような入居者の場合であっても、家族の意向を確認し、変化の兆しに予防的に対応できるよう1ヶ月毎にモニタリングの実施を見直しを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	経営母体の清宮医院に年1回ドライブを兼ねて、受診(さわやか検診)をしている。また、隣接の老人保健施設のリハビリテーションルームに毎日出かけ、滑車や平行棒等でリハビリを行なっている。毎月の美容訪問も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望で、入居前からのかかりつけ医やホームの協力医をかかりつけ医としている。2週間毎にかかりつけ医の往診があり、協力医の皮膚科医師も往診に見える。また、隣接の老人保健施設に歯科医が2週間毎に往診に見える時に、希望すると受診も可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のケアについて、入居時に説明をしている。状態の変化により医療が必要な場合には、本人や家族、かかりつけ医、看護部長、ホーム側で話し合い、希望に添った医療機関を紹介(入院)している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りを大切にして、丁寧な言葉遣いやプライバシーに配慮した排泄時の対応を心がけている。個人の記録類は事務所に保管し、職員は守秘義務について入職時に誓約をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にして支援している。申し送りの情報により、夜間不眠だった入居者にその日の希望を聞き昼まで寝てもらったり、その方のペースで食事をゆっくりと食べて頂くよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は、野菜の下拵えやテーブル拭き、後片付け等を職員と一緒にこなしている。職員は、食事介助しながら、入居者と共に食事を楽しめるように支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回14時頃からの入浴となっているが、希望により毎日でも入浴が可能である。入浴を拒否する入居者には、言葉かけやタイミングの工夫をしたり、翌日にする等に対応している。一番風呂や仲良しの入居者同士2人での入浴希望を聞いて対応したり、季節の菖蒲湯や柚子湯、入浴剤等で楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりが主人公になれるよう、洗濯物たたみ、野菜の下拵え、掃除のモップ掛け、花の水遣り等の得意分野で、力を発揮できる場面づくりをしている。習字や塗り絵、歌等を皆で楽しんだり、毎月のイベントでは車で花見や外出に出かける等の気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日ではないが、近隣の散歩や時には近隣のスーパーマーケットに買い物に出かけたり、ベランダの長椅子でティータイムを楽しみ外気浴をしている。併設する老人保健施設でリハビリをした帰りに田園や周辺の風景を眺めながら歩いてホームに帰るなど、できるだけ戸外に出かけられるよう支援している。		
もどる。					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかける弊害を理解しているが、玄関はセンサー付きのドアで施錠はしていないが、玄関とホールの仕切りドアは施錠している。入浴や排泄時は、介助に時間がかかる為、入居者の安全を考えて鍵をかけている。	○	職員の見守りの方法を徹底し、入浴や排泄時等を除いて昼間鍵をかけないケアの検討を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接の老人保健施設と合同で、年2回消防署の協力を得て火災避難訓練を行ない、ホーム代表者が参加し消火方法、避難経路を確認をしている。災害時協力体制として、防災協力員5名の地域の方をお願いしている。	○	入居者が避難できる方法を身につけるよう、合同の火災避難訓練に、職員も参加することや消火方法や避難経路等の確認を定期的に行なって頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成する献立を基に、入居者の好みを聞き、季節の野菜を取り入れた献立を考え、調理担当職員が食事を作成している。食事の摂取量や水分量はチェックし、その情報を共有し、食欲低下の場合は市販の高カロリー飲料で補っている。また、夏には食事の他にティータイムをしたり、入浴時の水分補給を行うなど、水分確保に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは明るく、テーブルやテレビの前にソファが置かれている。ホール南面のベランダには長椅子が置かれ、入居者が思い思いに居心地よく過ごせるような工夫をしている。ホール脇にはキッチンがあり、ご飯の炊ける匂いを感じられる。トイレは引き戸を開けると照明が点き、車椅子で入れる十分なスペースがある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への荷物の持ち込み制限は無く、使い慣れた時計やカレンダー、テレビ、椅子等が持ち込まれたり、壁には本人の描く絵や習字、塗り絵、長寿の慶祝状等が飾られたり、箆笥の上には家族の写真が置かれている。本人と家族に相談をしながら、本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。		